

コミュニティ（地域）による看取りの力

浮ヶ谷幸代（相模女子大学）

現代日本では80%近くの人が病院で最期を迎えている。国民の意識調査によれば、60%以上の方が自宅で最期を迎えることを希望しているにもかかわらず、実際は諸事情により病院で迎えている。こうした意識と現実とに齟齬がある日本の現状を背景に、2016年10月から、国立民族学博物館共同研究「現代日本における『看取り文化』の再構築に関する人類学的研究」と題して学際的研究に取り組み始めた。本分科会は、昨年度の「現代日本における『死』と『看取り文化』を考える」と題した分科会の第二弾と位置付けている。

本テーマで「看取り文化」とコミュニティを結びつける理由についてまとめておきたい。まず、看取り実践を「看取り文化」として位置づけることの意義である。「看取り文化」を「人の最期の迎え方についての文化」という広義に捉えると、老い、終末期、臨終、葬儀、墓に至るまで、ライフステージ全般に関わる考え方や行動様式を意味する。しかも、「文化」ということでいえば、個人の問題というよりは集団や地域全体で共有されていること、また一時的な現象ではなく、それが世代を超えて継承されていることを意味する。

他方、国内外の社会科学における看取り研究では、緩和ケアホスピスの研究が中心で、イギリスのホスピス運動や緩和ケアの文脈で関心がもたれてきた。しかし、これらの視点では、死を迎える本人をとりまく社会的なできごと、医療専門家や政策者が直面する課題など、政治的、経済的、社会的な側面が看過されてきたという。近年、イギリスやベルギーで医学的視点が支配的な看取り研究において、看取りを「文化」として扱う社会科学のアプローチのワークショップが開催されている。

日本の看取り研究も海外と同様、緩和ケアを中心とした医学的視点からのアプローチがほとんどである。先のライフステージに関する研究は、文化人類学、社会学、民俗学などで、それぞれ蓄積されてきたが、どのテーマにおいても、新自由主義に基づく自己決定ゆえの多様化が強調され、「多様性」の影に隠れて「文化」として捉えるアプローチは見当たらない。実質的な「看取り文化」も同様、1970年代を画期として自宅での看取りよりも病院死が多くなるにつれ、伝統的な「看取り文化」はほぼ消滅しているといつても過言ではない。

キーワード：看取り　死　地域　文化　再構築

ところが、近年、日本的一部の地域で、自宅を含めて在宅での看取りを実践する地域が現れている。そこでは、かつての伝統的な「看取り文化」は消滅していても、国家政策の地域包括ケアシステムと連動しながら、新たな看取り実践の場が生成しつつある。そこで、J.クリフォードの「消滅の語り」と「生成の語り」を手掛かりに、在宅での看取り実践を通して「看取り文化」が新たに生成されていく可能性を示したい。

次に、コミュニティ論とつなげることの意義である。コミュニティ論は人類学の重要なテーマであり、これまでさまざまなアプローチで取り組まれてきた。「共同体」の概念を再考する取り組み（小田 2004；松田 2004）や災害とコミュニティとの関係（木村 2006；竹沢 2013）、自助グループや苦悩を抱える当事者によるコミュニティ論（佐藤 2002；田辺 2008）、あるいはコミュニティの近接概念としての「つながり」（深田 2009）「共同性」（松村 2009）「連帶」（中川 2009）等が議論されてきた。また、地域論の文脈では、都市と地方とが重なり合う地域で、地域社会は学校、自治会、趣味などの複数のネットワークが重なり合う場で創造されることが示されている（阿部 2014）。

そこで、本分科会では、これらのコミュニティ論研究を踏まえたうえで、看取り実践をコミュニティが支える「看取り文化」として捉えてみたい。もちろん、コミュニティを手放して「善きもの」として扱うわけではない。コミュニティの存立の有無を問うとともに、コミュニティを想定したとしても、看取りにかかる地域包括ケアシステム、多職種連携、介護保険制度、終末期医療、家族介護、高齢者独居、高齢化と過疎化の問題など、コミュニティが抱える課題に向き合いながら、本テーマに取り組む必要がある。

本分科会は、趣旨説明（浮ヶ谷）、秋田県二ツ井町の社会福祉法人の在宅看取りのための「あんしんノート」（相澤）、神奈川県藤沢市の小規模多機能ホームの「地域をひとつの大きな家族に」という実践例（浮ヶ谷）、カナダサニーニッチのコミュニティが支える伝統的な「看取り文化」（渥美）、日本の無縁化社会における看取りから葬送への行政の取り組み（山田）、地域包括ケアシステムでの住民参加の位置（松繁）という6つの報告で構成している。これらの取り組みを通して、「看取り文化」の再構築のためにコミュニティという視点がいかに重要であるかを示したい。